

画に対する老舗の回答

シアター画質のプラズマテレビ



徹底的なまでの画質へのこだわり

高品質な画とこだわりの機能 富士通ゼネラルのAVM

ファンを魅了する ファインモード

富士通ゼネラルの製品において、「ファンモード」と名づけられたホームシアター表示画像である。

この「ファンモード」は、部屋の明るさを日常より落とした条件下で見るためのモードで、これまでのプラズマディスプレイならノンリニアの階調表示が滑らかにならず、微妙な階調差が失われたり、階段状の偽輪郭につながりやすい表示環境である。

もちろん、そこで見られるのは暗部階調の豊かさが試される映画だ。その映画を「ファンモード」は的確に再現すべく、周到な調整を繰り返し、プリセット値を定めてい る。

色温度などはユーザーが自ら調整（RGB256段階）できるものの、実際はメーカーによりセットでほぼ満足できるのではないか。しかも、色再現が非常に安定しており、ぱたぱたとした挙動を示したり、輝度によって色調が変わってしまうといった破綻がほとんどない。

独自のチップは 老舗のこだわり

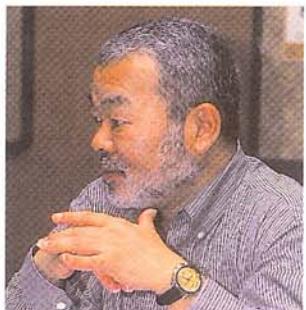
改めてここで記すまでもないが、富士通ゼネラルはプラズマディスプ

ホワイトバランスのトラッキングも丁寧に追いかけており、他社のプラズマディスプレイにありがちな緑かぶりもうまく補正できている。

ワイドVGAパネルの4233Jについては、ハイビジョン画像をそのまままで落とさなければならないが、エッジの抽出が的確なので高い尖锐感が維持され、一見フル表示かと錯覚させる。

しかし、画像設計者は怒るかもしれないが、試作製品の画質はと言えば、もっと粗いものだった。改善点を忌憚なく指摘してくれという申し出もあり、遠慮なく指摘した結果、この画質が出来上がってきたのである。

ということは、富士通ゼネラルが作り上げたAVMという回路が非常にフレキシブルであり、相当踏み込んだ調整が可能であることを意味している。この回路を積んだ富士通ゼネラルの今後の製品についても、目が離せない。



TEXT：松山凌一